
しゅごキャラ！亜夢と歌唄のバレンタインデー

ユーリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しゅごキャラ！亜夢と歌唄のバレンタインデー

【Nコード】

N9418J

【作者名】

ユーリ

【あらすじ】

星名歌唄は、幾斗や唯世・空海以外に親友の日奈森亜夢にもバレンタインのチヨコを渡そうと考える。意気込んでチヨコの材料を買いに出た歌唄だが、帰り道に過激なファンによって誘拐されてしま
い・・・

（前書き）

この小説には、少しでもですが亜夢と歌唄のガールズラブ要素があります。

苦手な方はご注意ください。

2月13日、この日はバレンタインデーの1日前の日である。

ホシナ ウタウ
星名歌唄は、バレンタインに向けて4つチョコレートを作ろうとしていた。

1人目は、ツキヨミ イクト
月詠幾斗。

歌唄の実の兄だ。

幾斗は歌唄と兄妹だから、恋愛関係にはなり得ない。

それでも歌唄は幾斗が好きだった。

例え、叶わない恋であっても・・・

2人目は、ホトリ タダセ
辺里唯世。

一時期、幾斗と歌唄がお世話になっていた辺里家の息子である。

歌唄自身、唯世には特に恋心はない。

ただ単に、世話になっていたお礼としてチョコをあげているだけなのだ。

3人目は、ソウマ クウカイ
相馬空海。

ガーディアンの前々ジャックスチエアだった男の子である。

歌唄自身、空海が聖夜学園を卒業するまではあまり面識がなかった。

その後、亜夢と一緒に過ごしていた時に空海からラーメンの早食い勝負を持ちかけられ、それが縁で少し仲良くなったのである。

歌唄はその時から、空海の事が少なからず気になっていた。

エルには『それは恋なんです！』と言われ、イルにも冷やかされる事が多々あるが・・・

そして、4人目が日奈森亜夢。

聖夜学園に通っている女の子で、ガーディアンでジョーカーをしている子である。

元々歌唄は、亜夢とはエンブリオを巡る敵同士であった。

しかし、大量の×タマを浄化したあの日から、亜夢は歌唄と友達になったのだ。

歌唄はその日以来、何かと亜夢を気にしていた。

女の子が気になるというのも、妙な話であるが・・・

それでも、歌唄は友達として亜夢の事が好きだった。

だからこそ、亜夢に贈るチョコは腕によりをかけて作ろうと歌唄は思っていたのである。

そんなワケで、歌唄は軽い変装をしてチョコの材料を買いにデパートに来ていた。

歌唄

「あ、イチゴが安く売ってる。これ入れたら、亜夢喜ぶかしら？」

エル

「きつと喜んでくれるぜ！な、エル？」

エル

「はいです！」

歌唄

「他にもビターチョコとバニラアイスと抹茶の素と・・・」

歌唄は色々と買い込んだ。

歌唄

「さ、帰りましょ！」

歌唄は買い物袋を持ち、デパートを出る。

その彼女を、謎の影が見つめていた・・・

歌唄は普段通らない裏路地を通って帰っていた。

イル

「歌唄、人気のない道みたいだけど大丈夫か？」

歌唄

「大丈夫よ、急いで走れば問題ないわ。」

歌唄は早くチヨコを作りたいという気持ちから、帰路を急いでいる。

そのせいか、歌唄は背後から忍び寄る影に気づかなかった。

そして、次の瞬間・・・

ガシッ！

歌唄

「キャッ！！」

歌唄は背後から影に羽交い締めにされた。

歌唄

「な、何！？」

歌唄は暴れる。

「・・・」

ガバッ！！

歌唄

「うつ！！」

歌唄は影に口をハンカチで塞がれた。

歌唄

「うゝ、うゝ!!」

歌唄はジタバタともがく。

しかし、やがて目がトロンとしてきた。

歌唄

「うう・・・（ね、眠・・・い・・・あ、亜夢・・・）」

歌唄はガクンとなり、買い物袋が落ちる。

影はニヤリとすると、歌唄を裏路地に停めてあつた車に押し込み、走り去って行った。

ブオオ・・・

エル

「ど、どうしましょう・・・歌唄ちゃんが・・・」

エルはオロオロしている。

今にも泣きそうだ。

イル

「泣いてる場合じゃねえ、エル!!早く亜夢に知らせに行け!アタシは歌唄の気配を追うから!」

エル

「了解なんです!!」

エルは亜夢の家に向かう。

イルも歌唄を追って飛んで行った。

歌唄

「ん・・・」

歌唄はうつすらと目を覚ました。

歌唄

「んっ、んんっ!!（て、手足が動かない!!それに口も・・・）」

歌唄は動こうとして、自分の今の状態に気がついた。

歌唄は体と手足をロープでグルグル巻きに縛られ、口もガムテープを貼られ塞がれていたのである。

歌唄

「んっ、んっ!!」

歌唄はジタバタともがいたが、彼女の力ではロープはビクともしな

い。

歌唄

「うつ・・・」

歌唄は俯いた。

歌唄は状況を分析してみる。

普通に考えて、これは誘拐だ。

それに歌唄はアイドルだから身代金目的の誘拐の可能性も十分考えられるし、イースターの仕業という可能性もある。

歌唄が考え込んでいると、突然光が差し込んできた。

歌唄

「うつ・・・」

暗闇の中にずっといたせいか、突然の光は眩しい。

歌唄は目をつぶる。

すると、1人の影が歌唄に近づいて来た。

コッ、コッ・・・

「やあ、星名歌唄ちゃん。ボクは、君の熱狂的なファンなんだ。」

歌唄

「んんっ・・・」

歌唄は影を睨みつける。

話し方からして、男だろうか。

「そんなに睨まないでくれよ。すぐ一緒に連れて行ってあげるよ。
黄泉の国にね・・・」

歌唄

「!!」

歌唄は男の言葉の意味を何となく理解した。

この男は何らかの理由で自殺するつもりだが、それに歌唄を巻き込むつもりなのだ。

歌唄

「んっ、ん〜ん〜!!」

歌唄は必死にもがいた。

「フフッ、歌唄ちゃんカワイイよ・・・」

男は笑っている。

歌唄

「（イ、イヤ・・・亜夢、助けてえ〜!!）」

歌唄は泣きそうになっていた。

同じ頃、日奈森亜夢はエルと一緒に走っていた。

ヒナモリアム
日奈森亜夢

「歌唄が誘拐されるなんて・・・イースターの仕業かな？」

エル

「わかりません、熱狂的ファンの仕業かも・・・」

亜夢

「とにかく急がなきゃね！エル、キャラなりよー！」

エル

「了解なんですー！」

亜夢

「アタシの心、アンロック・・・キャラなり！アミュレットエンジェルー！」

亜夢はエルとキャラなりし、アミュレットエンジェルになった。

亜夢

「待ってて、歌唄ー！」

亜夢は翼を広げ飛んで行った。

数分後、亜夢は飛んでいる途中で誰かの声を聞いた。

「おい、亜夢！こつちだ！！」

亜夢

「イル！」

亜夢はイルの声がした方へと飛んで行く。

そこは、錆びれた廃倉庫であつた。

イル

「亜夢、来てくれたか！」

亜夢

「イル、ここに歌唄がいるの？」

イル

「ああ、アタシ達しゅごキャラは持ち主の気配も感じ取れるからな！それに、何か×タマの気配もするんだよ・・・」

亜夢

「中に入りましょ！」

亜夢達は、倉庫の中へと入って行つた。

「さて、そろそろ・・・」

男はナイフを取り出した。

歌唄

「んっ、んんっ・・・」

歌唄は震えている。

「それにしても、スタイル良いよなあ・・・ちよっただくとするか。」

歌唄

「んっ、んんっ!!」

男はナイフを歌唄に向ける。

「へへへ・・・」

歌唄

「んっ!!」

「止めなさい!!」

「な、何だ!？」

突然の声に男が振り向くと、そこには亜夢が立っていた。

歌唄

「ん、んん!!（あ、亜夢!!）」

亜夢

「ラン、キャラチェンジ!!」

亜夢はランとキャラチェンジし、素早い動きで歌唄に近づいた。

ドギャン!!

「グワッ!!」

男が吹っ飛ばされる。

亜夢

「歌唄、大丈夫?」

亜夢は歌唄の口に貼られていたガムテープをはがした。

ピリリ・・・

歌唄

「イタタ・・・ええ、大丈夫!」

亜夢

「今ほどいてあげるね。」

亜夢は歌唄の背後に回ると、彼女の拘束を解きにかかる。

程なくして、歌唄は自由になった。

ゴソゴソ・・・

バサッ！

歌唄

「亜夢、ありがとう・・・」

「よくも邪魔してくれたな！」

亜夢・歌唄

「!?!」

亜夢と歌唄が振り返ると、男の体内から×タマが現れた。

ポンッ！

「何度頑張っても仕事はうまくいかねえ！オレは生きる事に絶望したんだ！だから腹いせに、アイドルの星名歌唄を巻き込んで自殺するつもりだったのに・・・こうなったら、オマエも道連れだ!!」

亜夢

「歌唄、キャラなりよ!!」

歌唄

「ええ!!」

イル

「亜夢、アタシに暴れさせろ！歌唄を怖い目に遭わせたアイツだけは許せねえ!!」

亜夢

「オッケー！アタシの心・・・」

歌唄

「アタシの心・・・」

亜夢・歌唄

「アンロック！！」

歌唄

「キャラなり！セラフィックチャーム！！」

亜夢

「キャラなり！アミュレットデビル！！」

亜夢と歌唄はキャラなりした。

亜夢

「デビルズチューン！！」

亜夢はギターを鳴らし、怪音波で×タマを攻撃する。

ギイイーン！！

「グッ・・・」

亜夢

「1度や2度の失敗が何なの！そんな事で、アタシの親友を巻き込まないで！！」

歌唄

「失敗したら、その分何度でも頑張れば良いじゃない！頑張れば、きっと良い事があるわ！」

「・・・」

×タマは無言になる。

亜夢

「ネガティブハートにロックオン!!」

歌唄

「亜夢、アタシもやらせて！」

亜夢

「うん！」

亜夢・歌唄

「デュアル・プリンセス・ハート!!」

亜夢と歌唄の力が、×タマを浄化する。

パアアアア・・・

男はその後誘拐容疑で逮捕され、亜夢と歌唄は簡単な事情聴取を受けてから2人で帰った。

歌唄は亜夢の家のキッチンで、亜夢と一緒にチョコを作っていた。

亜夢

「歌唄、上手にできてるよ!」

歌唄

「ありがと、亜夢!でも、このキャラチェンジは恥ずかしいなあ・・・」

歌唄は今、スウとキャラチェンジしているのだ。

自分のしゅごキャラではないスウとのキャラチェンジなので、歌唄は少し赤面している。

亜夢

「こんな歌唄も、アタシ好きだよ?」

歌唄

「ありがと、亜夢・・・ねえ、実はこのチョコの1つは亜夢のなの・・・受け取ってくれる?」

亜夢

「もちろん!アタシも歌唄に1つ作ってるんだ!」

歌唄

「あ、ありがと・・・亜夢・・・大好き!!」

亜夢

「アタシも大好きだよ、歌唄!!」

亜夢と歌唄は、抱き合った。

そして2月14日、亜夢と歌唄はお互いにチョコを贈り合う事になる。

・ バレンタイン、それは異性のみならず大切な人に贈り物をする日・

日奈森亜夢と星名歌唄。

2人の友情は、これからもずっと・・・

おしまい♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9418j/>

しゅごキャラ！ 亜夢と歌唄のバレンタインデー

2010年10月9日19時06分発行